

熱線再帰フィルム アルビード
IRA2J700

内貼り・横貼り

(発行：2017 年 3 月)

Albeedo®

施工マニュアル

※このマニュアルは内貼り・横貼り用「熱線再帰フィルム IRA2J700」の標準的な施工手順をまとめています。施工の際に必ずご一読ください。

※製品の取り扱いにあたっては、フィルム端部で指を切らないようご注意ください。

施工手順

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 事前準備 | 6. フィルムのエッジカット |
| 2. 防水養生 | 7. フィルムの本圧着 |
| 3. 窓ガラスの清掃 | 8. 仕上げ |
| 4. 窓ガラスの採寸とフィルムカット | 9. 点検・清掃 |
| 5. フィルムの貼り付けと仮圧着 | |

1. 事前準備

本製品は内貼り専用フィルムです。フィルムを施工できる状態かどうか窓ガラスやサッシ、コーキングを点検します。また以下の施工道具を準備します。

金属スクレイパー／ゴムワイパー／パワースキージー／プラスチックスキージー／ペーパータオル／養生シート／巻尺／施工液(水＋中性洗剤)／ポンプ式スプレー／マスキングテープ／当て切り用ヘラ(または三角定規)／カッター／腰袋／ポリ袋

施工液の作り方

水1リットルに対し、中性洗剤を1～3ミリリットルを入れてください(濃度 0.1～0.3%)。

ガラス面とフィルムの粘着面にスプレーすることにより、フィルム全体をガラスに均一に圧着できます。

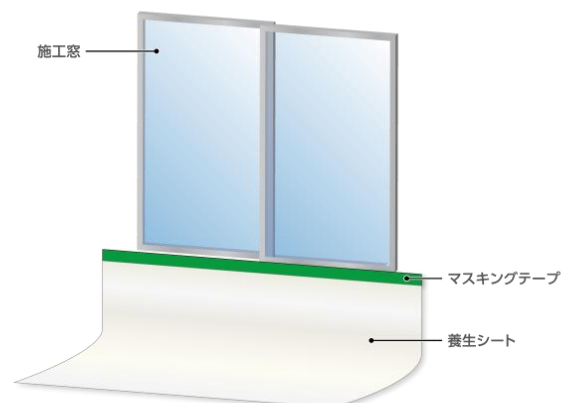
※ 施工時の温度は、5℃～35℃を推奨します。特に冬季は、フィルムからの水抜け性や施工後に誤ってフィルムがずれてしまうことを考慮し、最低5℃以上の環境で作業をおこなってください。

※ 直射日光が当たらない時間帯の施工を推奨します。直射日光が当たっていると施工液が乾燥しやすく、気泡が発生しやすくなります。

2. 防水養生

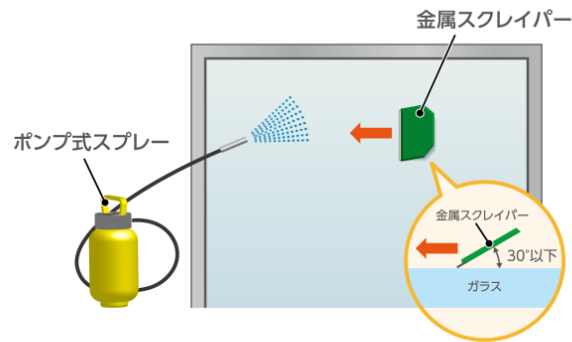
施工時に使用する水が飛散する範囲に、養生シートを敷きつめます。

※ 什器、書類などは、濡れないところに移動してください。



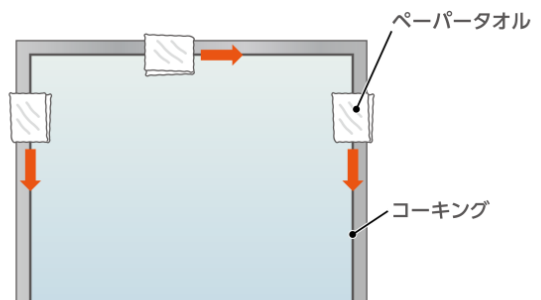
3. 窓ガラスの清掃

ガラス全面に施工液をスプレーし、金属スクレイパーでガラス表面の固形物を除去します。
ガラスが傷つかないように、金属スクレイパーとガラス面との角度は30度以下に保ちます。ガラザラ感がなくなり、金属スクレイパーがスムーズに移動でき、目視で固形物がついていなければ完了です。



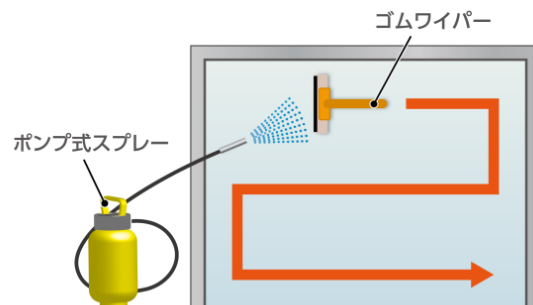
※ 強化ガラス、熱線反射ガラス、防耐火ガラスに対しては、金属スクレイパーを使用せず、ペーパータオルで拭き落としてください。

ガラスの縁、サッシ、コーキング部の汚れをペーパータオルで拭き取ります。



※ 繊維の落ちやすいタオルやティッシュペーパーは使用しないでください。

最後に、再度ガラス全面に施工液をスプレーし、ゴムワイパーでゴミを拭き取ります。

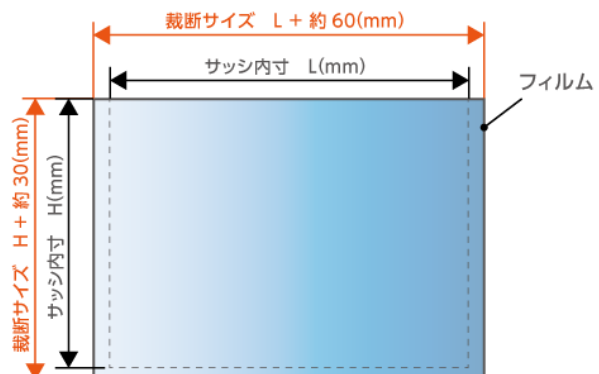
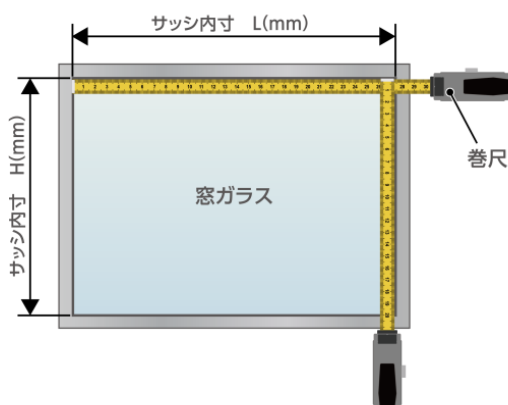


4. 窓ガラスの採寸とフィルムカット

フィルムを貼付するガラスのサイズを巻尺などで採寸します(フィルムは横貼りです)。

フィルムをサッシ内寸より大きめ(切りしろ各辺30mm 程度)に、粗切りします。

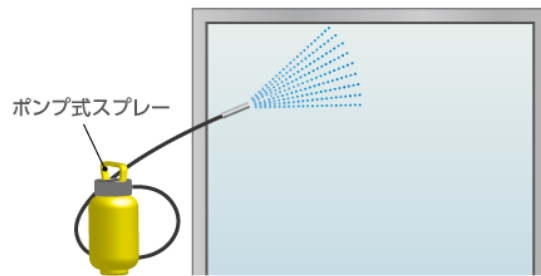
ガラスサイズがフィルム幅より広い場合は、フィルムをつなぎ合わせます。(「7. フィルムの本圧着」内参照)



5. フィルムの貼り付けと仮圧着

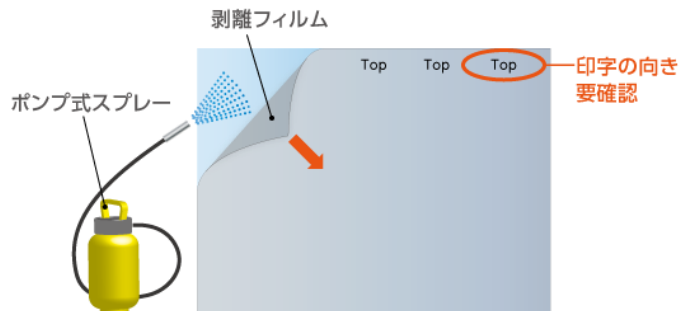
再度、ガラス全面にたっぷり施工液をスプレーします。

※ 施工液が不足した状態で作業をおこなうと、ガラス表面にフィルムの粘着剤が貼りつき、糊ズレ（粘着剤の変形）の原因となります。

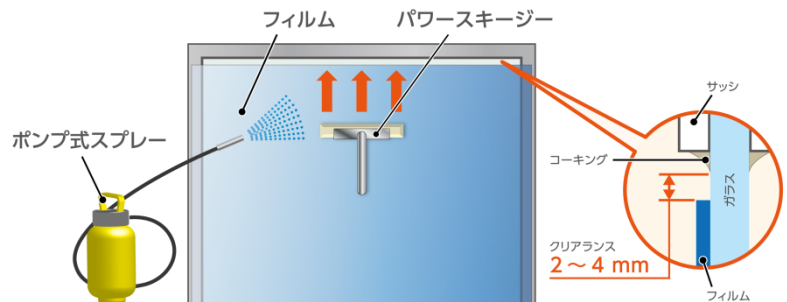


フィルムから剥離フィルムを剥がしながら、粘着面に施工液をスプレーします。

※ フィルムには、上下方向があります。剥離フィルム側に“Top”の文字が印刷されており、印字の位置がフィルムの上側にあたります。



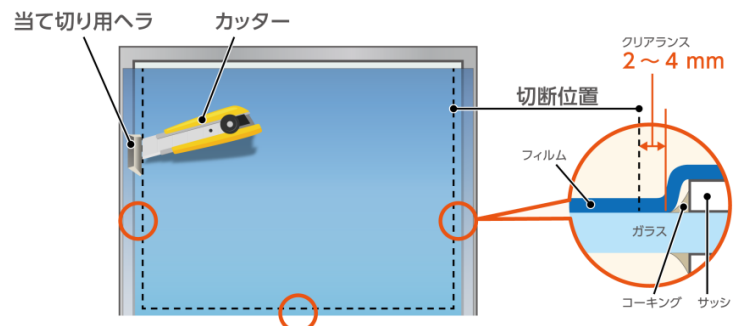
ガラスにフィルムを貼り付けた後、フィルム（ハードコート面）全体に施工液をスプレーします。クリアランス（フィルム上辺とコーキングとの隙間）を確認しながら、フィルムの位置を決め、パワースキージーでフィルムが動かないようにするみなく仮圧着します。



6. フィルムのエッジカット

当て切り用ヘラ（もしくは三角定規）をガラス面に直角に当て、ヘラにカッターを沿わせて移動し、フィルムのエッジをカットします。この時、コーキングとの隙間を2~4mm あけるようにしてください。

※ カッターでガラスを傷つけないように注意してください。



7. フィルムの本圧着

＜水抜きの手順＞

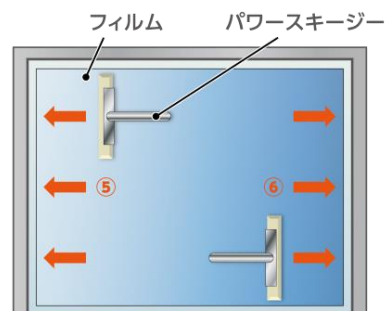
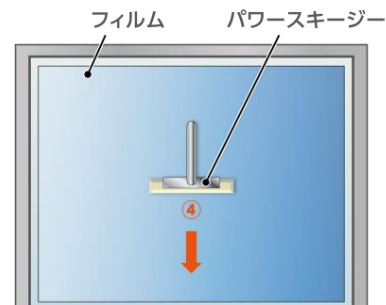
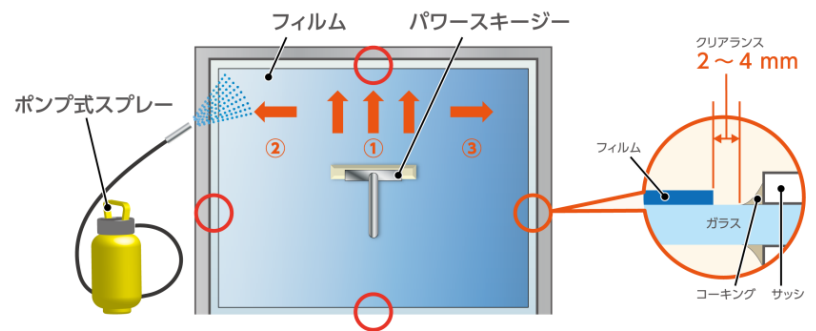
フィルム表面全体に施工液をスプレーします。
右記のようにパワースキージーを当て、水が
残らないようにしっかり水を抜きます。

①～⑥を3回繰り返してください。

※ パワースキージーは硬質ゴムタイプを使用して
下さい。

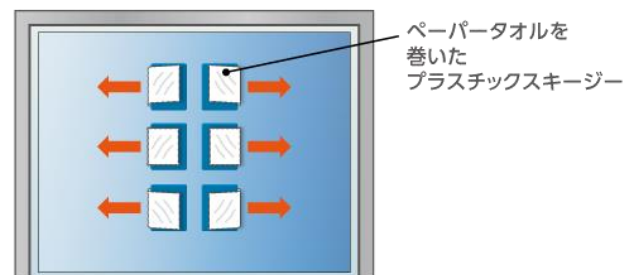
圧着する際、必ず水平、垂直方向に水を抜
きます。

※ 放射線状や往復しての水抜きはおこなわな
い
ください。水抜き不良の原因になります。



プラスチックスキージーの先端に、ペーパータ
オルを巻き、フィルムとガラスの間に残っている
水をしっかり押し出して拭き取ります。

フィルム端部が浮かないようにエッジ部分はし
っかり圧着し、確実に水を抜いてください。



＜フィルムのつなぎ合わせ施工の手順＞

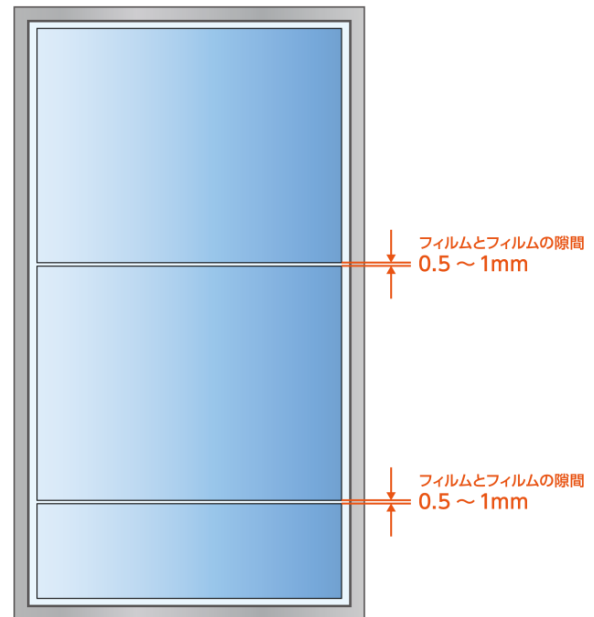
ガラスの高さがフィルムの幅より大きい場合は、つなぎ合わせをします。

フィルムは、窓の上から順に貼ります。

フィルムが重ならないようにフィルムとフィルムの隙間は、0.5～1mm にしてください。

以降、手順4～7の作業を繰り返します。

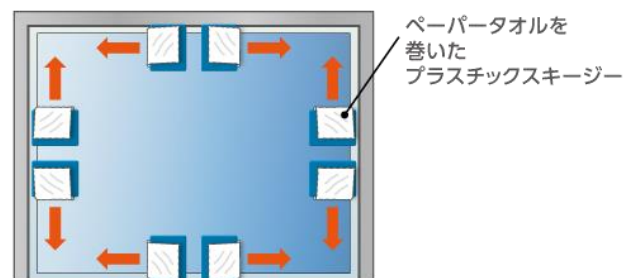
※ フィルムが多層構造となっているため、つなぎ合わせ施工の際、フィルムのエッジを何度も突き当てないようにしてください。



8. 仕上げ

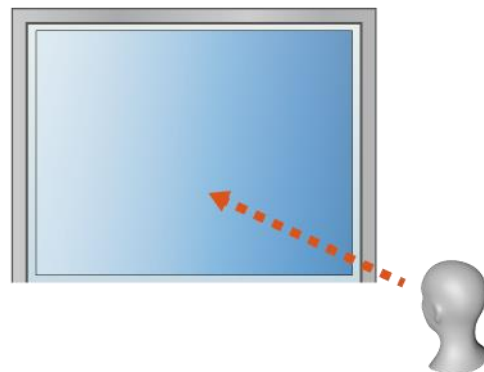
プラスチックスクレイパーの先端にペーパータオルを巻き、フィルム周辺に残っている水をしっかりと拭き取ります。

※ フィルムが多層構造となっているため、フィルムのエッジを引っ搔くと、剥がれる場合がありますので注意してください。



9. 点検・清掃

フィルムとガラスの間に、異物が挟まっていないか目視で確認をします。異物がある場合は、ガラス面に施工液をスプレーしながら、コーナーから丁寧にフィルムを剥がします。異物を取り除き、粘着面に施工液をスプレーしてからフィルムを元に戻してください。その後は手順の「7.フィルムの本圧着」から再度作業をおこなってください。フィルムのコーナー部が浮いていないか、確認してください。浮いている場合は、再度パワースクレーパーを押し当ててください。



以上で施工は完了です。

● 施工後の注意事項

・施工後に時間が経ってから、フィルムとガラスの間に小さな水泡が発生する場合があります。この水泡は、水分の蒸発とともに消滅していきますので、異常ではありません。

水泡が消滅するまでの養生期間は1ヶ月程度ですが、冬季や結露が発生する場所などでは、2ヶ月程度かかる場合があります。

・養生期間中は、フィルムに触れないよう注意してください。

